

取り組むべき課題（案）について



東京都

検討STEP

STEP1

- ・鉄道各社へのヒアリング等を通じて、
現状の正確な把握など、**問題点の掘り下げ**

STEP2

- ・東京の鉄道が持つ都市活動への影響の大きさなどの個性・特性を勘案し、**取り組むべき課題を特定**

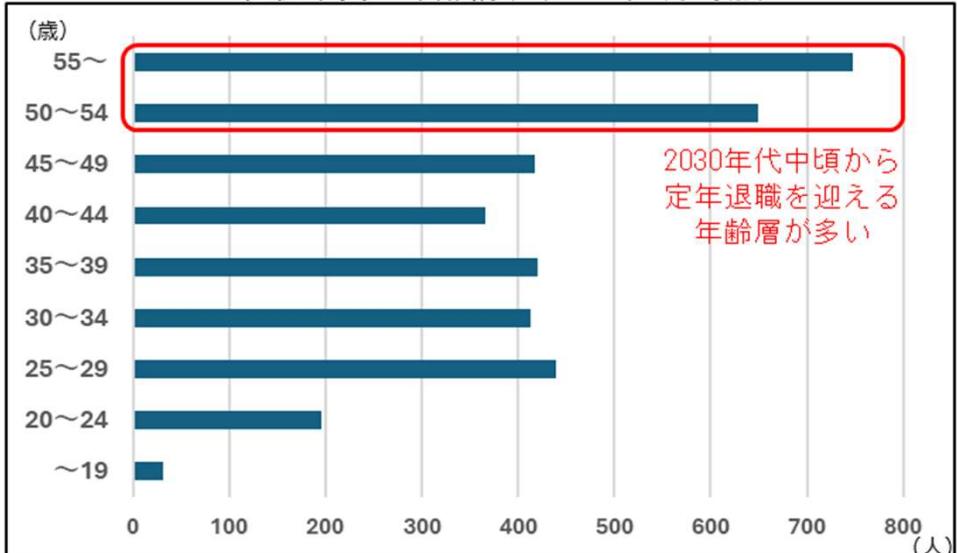
STEP3

- ・課題の解決に向けて、都・鉄道事業者で、議論・検討を実施し、**取組の方向性を共有**

**引き続き、将来にわたる持続可能な運行に向けて
有効な解決策を見出すため議論**

- 新卒の採用のほか、中途採用やアルムナイ採用などにより、**現状のところは当面の技術者確保ができている状況**
- 一方で、現状は50代以上の従業員数が多く、この従業員の今後の定年退職状況や、少子高齢化に伴う今後の採用競争の激化を勘案すると、**従業員数は近い将来に減少する見込み**
- また、鉄道施設物の老朽化や激甚化する自然災害への対応など、**今後、点検や保守工数が大幅に増加見込み**

当社従業員の年齢構成(2025年3月時点)



○ホームドア等の保守設備点数の増加



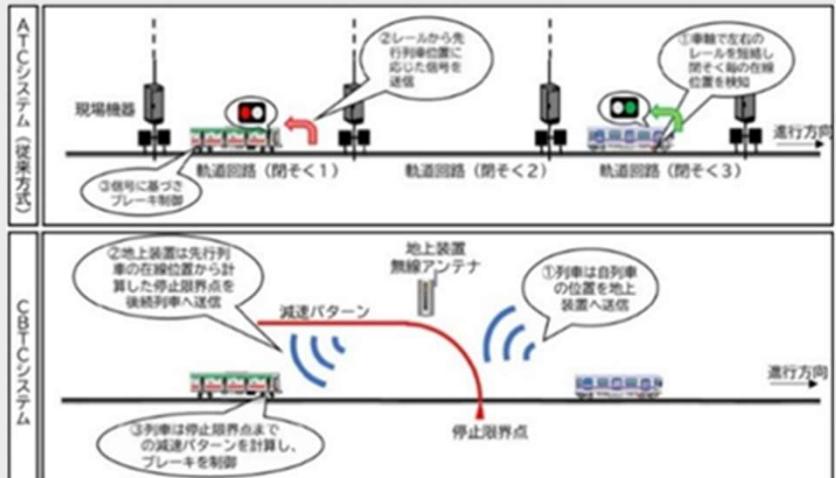
- 鉄道の運行設備の維持には夜間作業が不可欠であり、作業時間の確保を目的に2021年3月、最大30分の終電繰り上げも実施

現状の取組

第1回検討会
資料より

CBTCシステム※の導入等による保守設備の削減

※無線式列車制御システム



CBTCシステム（イメージ）

線路設備モニタリング等のCBM※推進

※線路状態を高頻度で把握して最適な時期に補修を行うメンテナンス手法



線路設備モニタリング装置

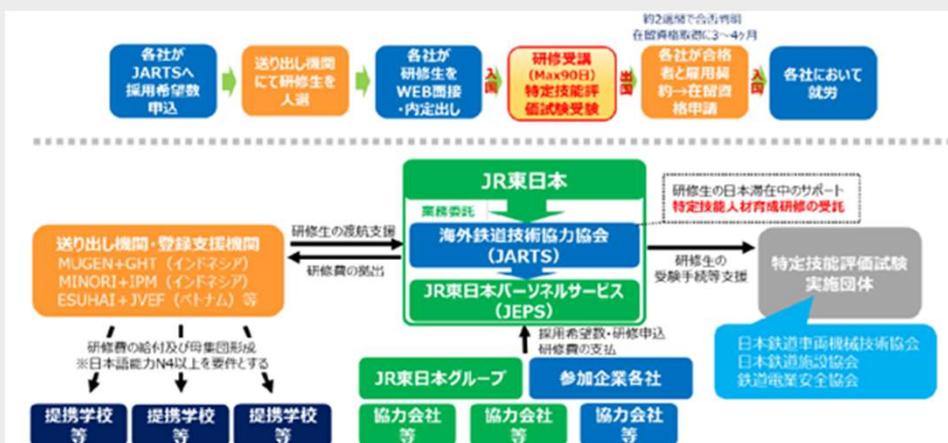
自動運転(GOA3※)に向けた検証の推進

※添乗員付き自動運転



自動運転の実現に向けた新型車両（イメージ）

外国人特定技能人材の育成

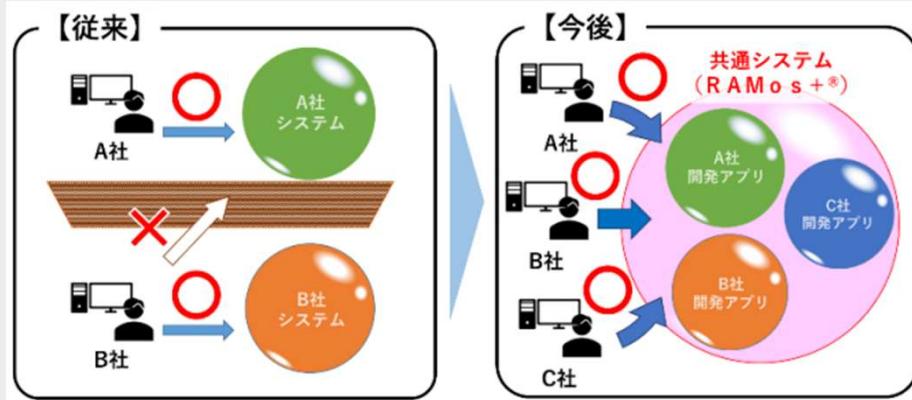


外国人特定技能人材育成研修のスキーム

連携することの有効性

鉄道事業者間で連携した取組事例（第1回資料より）

保線管理システム「RAMos+®」を鉄道6社で連携



JR東日本プレス資料抜粋

【効果】

- ・システム開発費用の削減
- ・メンテナンスの生産性向上

相互直通他社との共同使用・作業連携



京王電鉄資料抜粋

【効果】

- ・メンテナンスやレール交換作業を削減
- ・維持管理にかかる労力等の重複を軽減

鉄道事業者間で連携することによるメリット

コスト削減

設備やシステムの共同利用により、開発・維持・保守にかかる費用を分担

技術者の負担軽減

共通仕様の維持管理により、保守作業員等の業務負担が軽減

効率化

設備や装置の仕様共通化により、保守作業等の業務効率が向上

旅客サービスの向上

共通仕様アプリの開発により、分かりやすい旅客サービスを提供

将来にわたる鉄道の持続可能な運行確保に向けて、

→ 都としては、鉄道事業者間連携の取組を促進することが有効であると思慮

取り組むべき課題(案)

現在（2025年）の
鉄道の強み

高頻度

正確

安全

な鉄道運行

生産年齢人口の減少（▲約100万人）に伴う技術者不足

持続可能な運行確保に向けて取り組むべき課題（案）

自動運転化
への取組

作業要員の
確保

共通仕様の設備等の
導入による効率化

設備の統廃合等による
スリム化

維持管理等に係る
鉄道事業への理解増進

災害等の非常時における
体制の強化

設備や人員等の
効率活用

etc.

事業者間の連携が有効な課題を特定

課題解決に向けて取組を実施

将来（2050年代）も高いサービスレベルを確保